



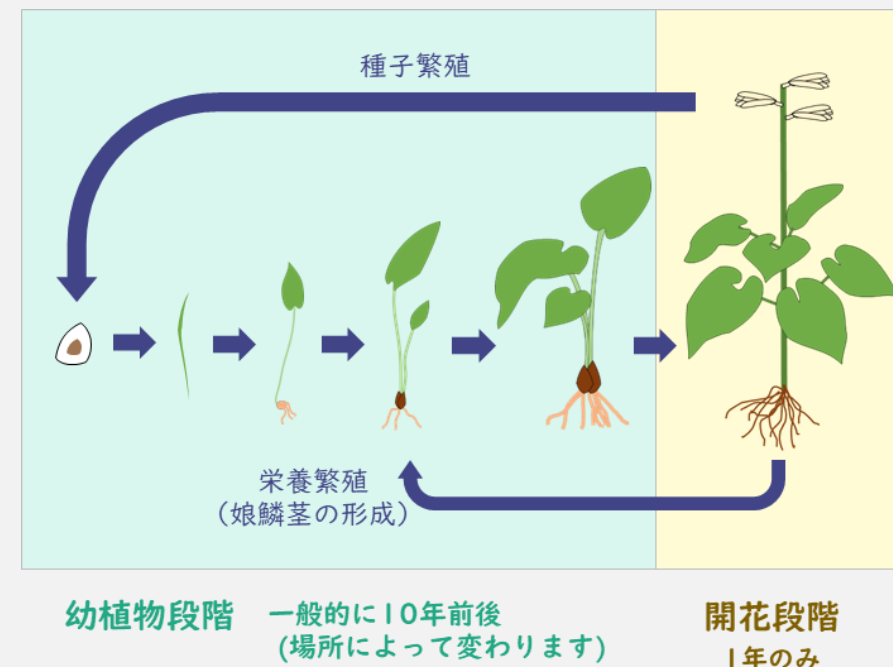
ウバユリ群落の将来を探る

～発芽から開花までの追跡調査から読み解く森林の今後～

ウバユリの一生

ウバユリは開花するまでに複数年の歳月がかかる多年生植物です。開花する前の若い個体は、毎年4～5月に展葉して光合成を行い、得られた資源を地下の鱗茎に蓄積します。そして地下に蓄えた資源を使って、翌春にひと回り大きくなって再度展葉します。このサイクルを何年も繰り返して十分な資源が蓄えられたのち、ようやく開花できるようになり、7～8月に白い花を咲かせます。

ウバユリは一生に一度だけ花を咲かせる「一回繁殖型」の植物です。開花した個体は翌年に生き残ることはありません。つまり、ウバユリの開花群落は、毎年同じ個体が繰り返し咲いているわけではないのです。長い幼植物段階を途中で死亡することなく生き抜いた個体が絶え間なく後から続くことで、開花群落は維持されています。



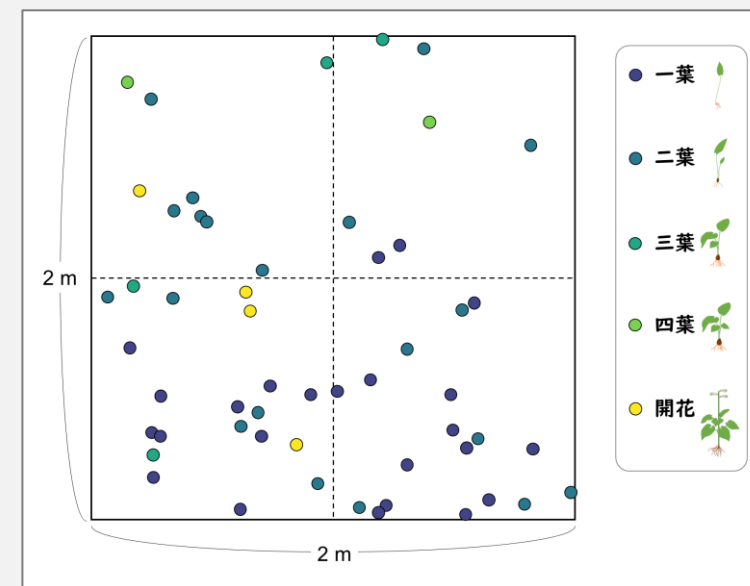
植物版「国勢調査」で探るウバユリ群落の未来

都市化などにより、ウバユリが暮らす森林の環境は変化しています。今残っている群落が将来も存続できるのかを予測するために「人口統計調査」を実施しています。これは人間でいう国勢調査のように1個体ずつを識別しながら定期的に「前回からどれくらい生存できたか」「どれほど成長したか」を追跡する調査です。幼植物が生存・成長できる状態を維持することは、開花群落を保全するうえで重要です。ここ蘆花恒春園の群落は都心部に残る希少な群落として、毎年調査を実施しています。

夏の華やかな花を見るだけでなく、その足元で暮らす幼植物たち（将来の開花個体）を追跡すること。それが、開花群落を長期的に保全して多様な生き物を育む森を守るための一歩になるのです。



調査の様子 タグなどを使って個体識別をします。



蘆花恒春園の調査区内の個体分布 開花個体(●)の足元には多数の幼植物(●●●●●)がいます。